

早稲田大学 社会科学部 数学 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	不等式と領域直線の領域通過問題	(1)(2)は頻出問題. 放物線を境界とする部分と直線が接するのは, 連立の場合接点の存在を確認すること. 微分を用いるのもよい. (3)関係式は底を2とすることで x, y の一次式が見えてくる.	標準
2	連立漸化式	近年の漸化式の問題はこのように直接解法が必要ではなく, 誘導として(2)の設問が設けられていることが多い. 数列の式としての表現に慣れておくことである. 本年度の早稲田大学の問題は漸化式に関しては理工学部Ⅱが一番質の高さを感じる.	標準
3	整数の集合	整数は素数と素数の積で表される数(合成数という)からなることを集合として整理させる問題.	標準

〔総合コメント〕

<p>問2, 3は受験生の中には苦手意識を持っている者も少なくないのではないだろうか.</p> <p>いずれの設問も充分時間を与えられれば問題本来の面白さも味わえるのではなかろうか.</p> <p>それだけに組み立ては解明できて単純なケアレスミスが怖い. 日常から数学の解答を実際に自力で解く時間と解答を読み物として味わう気持ちがほしいところだ.</p>
